

Newsweek

【日本語翻訳】

伊東電機株式会社: 自動化されたコンベヤソリューションで完全に統合されたパッケージを実現

ソフトウェアとハードウェアの両方を備えた伊東電機のコンベヤソリューションは、お客様に最先端の物流技術を提供します。

「物流現場のビッグデータを活用し、予知保全とワークロードの無負荷化を実現することで、次世代のコンベヤイノベーションを目指します。」（代表取締役社長 伊東徹弥）

文章：

今後、グローバル電子商取引市場および工場や倉庫の自動化に対する需要は、急速に拡大していくことが予想されます。これらの傾向は、物流センターや工場向けのモジュール式自動搬送ソリューションの世界的リーダーである伊東電機株式会社（以下、「伊東電機」）にとっても好都合です。

日本は、ロボット技術に長けていることに加え、少子高齢化による国内の労働力不足への対応が急務であることから、「明日の技術」を構築することをビジョンとする伊東電機のような革新的なメーカーが数多く存在することで、インダストリー4.0（第四次産業革命）時代のファクトリーオートメーション（FA）の最前線に位置しています。

1946年に設立された伊東電機は、常にイノベーションを追求してきました。1988年に世界初の24VブラシレスDCパワーローラー「Power Moller 24」を開発し、日本の有名な製造業のお客様の間で、安全、静か、そしてエネルギー効率の高い選択肢となりました。20年以上前に米国に進出した伊東電機は、アメリカ合衆国郵便公社（USPS）の物流システムの近代化に重要な役割を果たし、現在ではアムステルダムとカリフォルニアに世界有数のテクノロジーセンターを擁し、米国、ヨーロッパ、さらには世界各地へのグローバルな展開を目指しています。

伊東電機は、75年にわたるモーター製造の経験を活かし、革新性、モジュール性、安全性に基づいた、工場や物流センターのための市場をリードする自動化ソリューションを開発

することを目指しています。

伊東電機代表取締役社長である伊東徹弥は、「当社のモーター技術の上に、制御・通信などのソフトウェア技術、コンベヤモジュールなどのハードウェア技術を組み合わせることで、コネクテッド・ファクトリー、シームレス・ロジスティクスを実現し、最終的には労働力不足の解決に貢献することを目指しています」と語り、Power Moller®(MDR: Motor driven roller) を最新のインダストリー4.0 ソリューションに対応させ、お客様が物流技術の最先端に到達できるようにアップデートを続けています。

「具体的には、当社の Power Moller® (MDR: Motor driven roller) をマスターセルとし、MDR をベースとしたインテリジェントプラットフォームを構築し、各周辺機器を自律分散制御で接続することで、インターネットやコンピュータと物理的な搬送装置を融合させています。これらの取り組みにより、物流現場のビッグデータを活用した予知保全やワークロードの無負荷化など、次世代のコンベヤイノベーションを実現していきます。」

従来のマテリアルハンドリング (マテハン) 機器や FA 機器は大きく、重く、煩わしいものでしたが、伊東電機のキーコンセプトは「軽く、薄く、短く、小さく」というソリューションを開発することにあります。例えば、伊東電機の電動ローラーは、コンプレッサーで高圧の空気を作る必要がある従来のマテハン機器に代わる理想的な製品だと伊東氏は説明する。

「私たちが実現しようとしているのは、マテリアルハンドリングのプロセスのあらゆる部分に、私たちのモーター技術を導入することです。興味深いことに、空気圧を排除したエアレス技術は、マテリアルハンドリングのあらゆるセグメントから注目されています。」

idPAC は、「軽・薄・短・小」をコンセプトにした、伊東電機の代表的なポイント・アンド・クリック・ソリューションの一つです。idPAC システムは、ローラー、転写モジュール、回路基板、フレーム、ソフトウェアなどのモジュール一式が付属しており、迅速かつ簡単に効率的な設置が可能です。このシステムは、ローラー、転写モジュール、回路基板、フレーム、ソフトウェアなど、すべてのモジュールが組み立てられ、配線も完了しているため、設置にかかる費用と時間を大幅に削減することができ、早期の運用開始と投資回収を可能にします。

伊東電機は、国内および海外のお客様からオートメーション機器のリーディングサプライヤーとしての評価を得ていますが、今後は、高品質・高性能なモジュール型コンベヤの導入を検討されているグローバルなお客様に向けて、より広く展開していきます。